

証券コード：9179

**K**  
"K"LINE KINKAI

# 株主通信

第50期 2015年4月1日 ▶ 2015年9月30日



写真提供元「室蘭民報社」

シルバーQueen

川崎近海汽船株式会社

# 株主の皆様へ



## CONTENTS

▶ 株主の皆様へ ..... 1	▶ トピックス ..... 7
▶ 財務ハイライト ..... 2	▶ 連結財務諸表 ..... 9
▶ 部門別営業概況 ..... 3	▶ 会社概要・株式の状況 ..... 10
▶ 船舶紹介 ..... 4	▶ 株主メモ ..... 裏表紙
▶ 特集 拠点紹介 ..... 5	

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

第50期第2四半期の営業概況ならびに事業内容をご理解いただくために、株主通信をお届けいたします。

当第2四半期連結累計期間（2015年4月1日から2015年9月30日まで）におけるわが国経済は、政府による経済政策や日本銀行の金融緩和を背景に企業収益や雇用環境が改善に向かうなど景気は緩やかな回復基調が続きましたが、世界経済の減速懸念により先行き不透明な状況で推移しました。

海運業界を取り巻く環境は、燃料油価格の下落と円安の継続が見られたものの中国をはじめアジア諸国経済の停滞により厳しい経営環境となりました。

こうした情勢下、当社における当第2四半期連結累計期間の売上高は222億円となり前年同期比5.4%の減収となりましたが、燃料費の減少が業績の下支えとなり、営業利益は14億87百万円となり前年同期比85.2%の増益、経常利益は14億60百万円となり前年同期比81.3%の増益となりました。純利益は9億60百万円となり前年同期比87.9%の増益となりました。

中間（第2四半期末）配当につきましては、1株当たり6円とさせていただきますことになりました。期末配当につきましては、1株当たり5円を予定しており、年間配当は1株当たり11円となる予定です。

海運業の事業環境は、依然厳しい状況にありますが、当社は各部門にわたって一層の業績向上を目指す所存です。

株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

石井 繁 礼

# 財務ハイライト

## 当第2四半期の業績結果

### 連結業績

売上高	222億円	(前期比- 5.4%)
営業利益	14億87百万円	(前期比+85.2%)
経常利益	14億60百万円	(前期比+81.3%)
純利益	9億60百万円	(前期比+87.9%)

### 連結財務状況

総資産	404億73百万円
純資産	237億35百万円

### 連結キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フロー	22億41百万円
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3億92百万円
財務活動によるキャッシュ・フロー	△14億 8百万円

### 中間（第2四半期末）配当金

1株当たり6円

## 通期の業績予想

### 連結業績

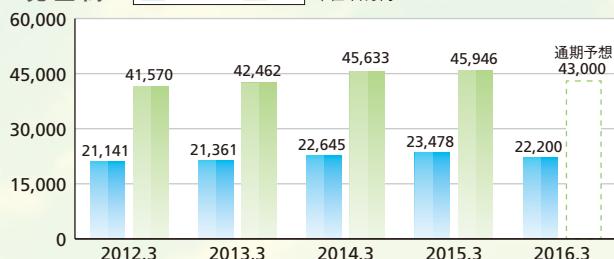
売上高	430.0億円
営業利益	26.5億円
経常利益	26.0億円
当期純利益	17.5億円

(下期の想定円ドル為替レート 1ドル=120円)

### 年間配当金

1株当たり11円(中間(第2四半期末)6円・期末5円)を予定

■ 売上高 単位:百万円



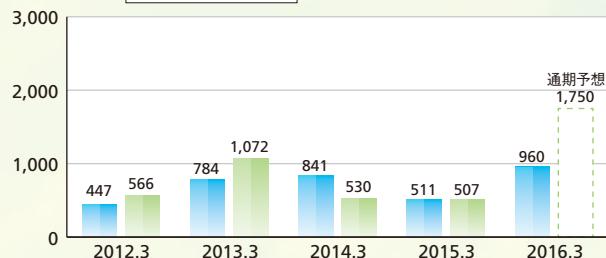
■ 営業利益 単位:百万円



■ 経常利益 単位:百万円



■ 純利益 単位:百万円



# 部門別営業概況

## 近海部門 売上高

85億13百万円

部門別  
構成比(%)  
38.3%



### ●バルク輸送

荷動きの低迷によりスポット貨物の輸送量は減少しましたが、石炭・スラグ等の年度契約では安定した輸送量を確保しました。

### ●木材輸送

バイオマス発電用PKSや木材チップの輸送において前年同期を上回る輸送量となりました。輸入合板では日本への入荷量が減少するなかシェア拡大を図りましたが、輸送量は前年同期を下回りました。

### ●鋼材・雑貨輸送

自家集荷の合い積み貨物の取り込みなどにより輸送量が前年同期を上回りました。

当部門の売上高は85億13百万円となり前年同期に比べて2.6%の減収となりましたが、営業損失は前年同期5億86百万円から2億19百万円改善し、当四半期は3億66百万円となりました。

## 内航部門 売上高

136億85百万円

部門別  
構成比(%)  
61.6%



### ●不定期船輸送

荷動きの停滞により小型貨物船の市況は低迷しましたが、鉄鋼、セメントメーカー向け石灰石専用船や電力向け石炭専用船は順調な稼働となりました。

### ●定期船輸送

国内の物流動向が低迷する中、昨年8月に行った苫小牧航路と北九州航路投入船の大型化を受け、鋭意集荷営業に努めた結果、前年を上回る輸送量を確保しました。

### ●フェリー輸送

宅配貨物などの雑貨の活発な荷動きによりトラックの輸送量は前年同期を上回りました。また旅客、乗用車では、大型連休やガソリン価格の値下がりなどの効果もあり前年同期を上回る輸送量となりました。

当部門の売上高は、136億85百万円となり前年同期に比べ7.1%の減収となりましたが、営業利益は18億54百万円となり、前年同期に比べて33.4%の増益となりました。

## 近海部門



GALLEON



EAGLE WIND

計29隻

### バルク輸送

ロシア、ベトナム、インドネシア、豪州から石炭、タイから石膏や砂糖を日本、韓国などへ輸送しています。

### 木材輸送

マレーシア、インドネシアから日本向けに合板製材、パプアニューギニア諸島から日本、中国向けに南洋材、ベトナム、マレーシアなどから日本、中国向けにチップを輸送しています。

### 鋼材・雑貨輸送

日本からタイ、香港、シンガポール、マレーシア、インドネシアなどを中心に東南アジアへ向けて鋼材、機械、プラントなどを輸送しています。

## 内航部門



やまさくら



ほっかいどう丸



シルバープリンセス

9隻

### 不定期船輸送

鉄鋼副原料やセメント原料となる石灰石、電力（火力発電）用石炭のほか、石膏、国産材、木材チップなど多様な物資を日本各地に輸送しています。

8隻

### 定期船輸送

貨物を積載したトレーラーやトラック、建設機械、商品乗用車等の無人航送を行う「RORO船」定期航路を運航し、主に関東から北海道間、関東から九州間でさまざまな品物を効率的に輸送しています。

4隻

### フェリー輸送

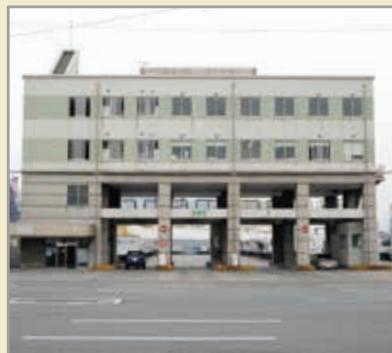
八戸と苫小牧の間を毎日4便運航し、本州と北海道を最短ルートで結ぶ重要基幹航路として、宅配貨物や生鮮食料品など人々の暮らしに必要な物資を輸送しています。

## 内航定期航路の西の拠点として

北九州港は、古くから朝鮮、中国との交易におけるわが国の西の門戸として、近代は日本の工業化を支える港としての役割を果たしてきた歴史ある国際貿易港ですが、人々の生活や産業を支える国内物流の拠点港としても大切な役割を担っています。

北九州地域における当社の定期航路は、1985年11月に開設した門司～日立間のコンテナサービスを起点としています。門司地区は、長らく川崎汽船系列会社の新東運輸（現シーゲートコーポレーション）に集荷代理店を委託していましたが、輸送形態がコンテナ貨物からシャーシ貨物に移行することに伴って、2006年4月に北九州事務所を開設、同年6月からは接岸バースを小倉の日明地区に移し、大型RORO船による北九州～北関東（日立港）間の定期航路を開始しました。当航路は週2便の定期海上輸送サービスを提供しており、一般雑貨をはじめとして、工業製品、木材製品、商品車などを輸送しています。2011年2月以降は、日立港から常陸那珂港に移転し、常陸那珂～苫小牧航路に接続が可能となったことから九州～北海道間において陸上輸送を必要としない日本でも数少ない一貫輸送サービスを提供し、お客様から高い評価をいただいています。

2014年9月には北九州事務所を九州支店に改称し、九州・中国地区における更なる営業体制の強化を図ることにいたしました。



北九州  
(日明)

細島

油津

日立

常陸那珂

東京

### 九州支店 Kyushu Branch

住所 福岡県北九州市小倉北区西港町118

TEL (093)562-0655

FAX (093)562-0661



## ■九州事業の歩み

- 
- 2015年 7月** 2016年秋を目途に大分～清水に大型RORO船による新規定期航路を開設する検討を開始。
- 2014年 8月** 北九州（日明）～常陸那珂定期航路の運航船をシャーシ80台積の新北王丸から105台積の勇王丸に変更。
- 9月** 九州・中国地方の営業強化のために、北九州事務所に替えて九州支店を開設。
- 2011年 2月** 北九州（日明）～日立定期航路を北九州（日明）～常陸那珂定期航路に変更。
- 4月** 東日本大震災により運休していた北九州（日明）～常陸那珂定期航路を4月1日より北九州（日明）～川崎航路として新北王丸1隻の週2便で臨時運航開始。
- 5月** 常陸那珂港区の一部が復旧。5月18日より北九州（日明）～常陸那珂定期航路の運航再開。
- 10月** 北九州（日明）～常陸那珂定期航路を週3便より新北王丸1隻による週2便に減便。
- 2007年 4月** 北九州（日明）～日立定期航路に、効率的な大型RORO船“勇王丸”“新北王丸”の2隻が就航。
- 2006年 6月** 北九州事務所開設。北九州（日明）～日立定期航路開設。週3便による大型RORO船“げんかい”“ひたち”の2隻が就航。
- 1985年 11月** 菱化海運（現 三菱化学物流）との共同運航により門司～日立コンテナサービスを開始。

## 今後の展開

ここ数年、陸上長距離輸送から海上輸送へのモーダルシフトが顕著となってきております。陸続きの九州・中国～関東間においても物流事業者の輸送モードが、徐々に有人トラックから船舶を利用した輸送に転換する期待感があります。九州支店はこうした時流の変化を捉えて、当社の定期航路を有効に利用していただけるよう、新規顧客の開拓に向けて積極的な営業活動を展開していく役割を担っております。当社は、来年秋には清水～大分間でRORO船による新航路を開設する予定ですが、更なる情報収集に努めて積極的な営業展開を図ってまいります。

## TOPICS 1 オフショア支援船“あかつき”が2016年3月に竣工します。

株式会社オフショア・ジャパン（2013年10月設立）は、国内海域および東南アジア海域で活躍が期待されるオフショア支援船の最適船型を研究・追求していましたが、会社設立と同時に荒天時でも安定度／操作性が高く海洋汚染防止条約の燃料油タンク保護規則にも対応し地球環境にも配慮したデザインを持つ最新鋭アンカー・ハンドリング・タグ・サプライ船（AHTSV）を新造発注し、来年（2016年）3月に竣工いたします。

国内最強となる牽引力（Bollard Pull）150トンを持ち、船位保持システムDPS2を備えた本格的AHTSVの就航に御期待下さい。

本年10月30日進水の様子 ▶



## TOPICS 2 清水—大分 航路開設予定

当社では、静岡県清水港と大分県大分港を20時間で結ぶ新たなRORO船の航路を週3便、2016年秋（予定）に開設するべく、検討を開始いたしました。

清水—大分間20時間航路が開設することで、陸送のトラック輸送に匹敵するリードタイムの輸送が可能になり、陸から海へのモーダルシフトの原動力となり得る航路です。

2016年秋 開設予定

関東・甲信～九州3日目配送 構想

清水—大分  
週3便 運航



スケジュール(計画案)

	月	火	水	木	金	土	日
清水	19:30発	●		●		●	○
大分	23:30発		●		●		○

## TOPICS 3 宮古～室蘭 航路開設検討開始

フェリー部門では2018年春（予定）に岩手県宮古港と北海道室蘭港（325km）を結ぶ新たなフェリー航路を開設するべく検討を開始いたしました。

当航路の選定理由は、**1**両港周辺の交通整備が急ピッチで進められており、今後各港へのアクセスが大幅に向上すること、**2**トラック事業者からドライバーがフェリー乗船中に継続して8時間の休息が取れる10時間で結ぶ新たな航路開設の要望があったこと、**3**両港とも近隣に国立公園など観光資源が非常に豊富で旅客需要が期待できること、**4**地元自治体が航路誘致に積極的で、トラック事業者等利用者が本航路の開設に大きな期待を寄せられること、が挙げられます。この航路開設が実現すると、岩手県は初のフェリー航路、室蘭は2008年以來のフェリー航路復活となります。航路開設まで課題も多くありますが、一つひとつ解決し、実現に取り組んでまいります。

### 概要

- 航路名：宮古～室蘭
- 航海時間：10時間
- 開設時期：2018年春（予定）
- 使用船舶：未定
- 運航計画：1日1往復、通年運航



## 表紙の船 “シルバークイーン”

The Ship on the Cover

### 船舶概要

総トン数	7,005t	車積積載能力	トラック90台、乗用車20台
全長	134m	旅客定員	600名
航海速度	23.2ノット	ドライバーズルーム	80名

本船は、1998年（平成10年）3月、三菱重工業株式会社下関造船所にて建造された3代目です。フラッグシップというべく他3隻のフェリーと比較し馬力、速力、積載能力に優れ、八戸港～苫小牧港間を7時間で結びます。同航路は、本州と北海道を結ぶ重要な基幹航路として、旅客の他、宅配貨物、工業製品、農水産物を輸送し、産業と人々の暮らしを支えています。

表紙の写真は“シルバークイーン”が航路開設検討のために室蘭港にトリアル入港した際、白鳥大橋の下を航行する様子です。



# 連結財務諸表

## 第2四半期連結貸借対照表(要約)

(単位：千円)

資産の部	当第2四半期末 2015年9月30日現在	前期末 2015年3月31日現在
<b>流動資産</b>	<b>14,733,089</b>	<b>13,902,451</b>
<b>固定資産</b>	<b>25,740,071</b>	<b>27,002,919</b>
有形固定資産	23,184,684	24,439,122
無形固定資産	159,032	180,667
投資その他の資産	2,396,354	2,383,129
<b>資産合計</b>	<b>40,473,160</b>	<b>40,905,370</b>
<b>負債の部</b>		
負債の部	当第2四半期末 2015年9月30日現在	前期末 2015年3月31日現在
<b>流動負債</b>	<b>8,056,010</b>	<b>8,468,215</b>
<b>固定負債</b>	<b>8,682,134</b>	<b>9,400,461</b>
<b>負債合計</b>	<b>16,738,145</b>	<b>17,868,677</b>
<b>純資産の部</b>		
純資産の部	当第2四半期末 2015年9月30日現在	前期末 2015年3月31日現在
<b>株主資本</b>	<b>23,080,891</b>	<b>22,253,616</b>
資本金	2,368,650	2,368,650
資本剰余金	1,248,849	1,248,849
利益剰余金	19,491,259	18,663,984
自己株式	△27,867	△27,867
<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>653,727</b>	<b>782,435</b>
その他有価証券評価差額金	276,953	392,717
土地再評価差額金	120,358	133,622
為替換算調整勘定	248,082	252,154
退職給付に係る調整累計額	8,332	3,941
<b>非支配株主持分</b>	<b>397</b>	<b>641</b>
<b>純資産合計</b>	<b>23,735,015</b>	<b>23,036,693</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>40,473,160</b>	<b>40,905,370</b>

## 第2四半期連結損益計算書(要約)

(単位：千円)

	当第2四半期 累計期間 自 2015年4月1日 至 2015年9月30日	前第2四半期 累計期間 自 2014年4月1日 至 2014年9月30日
<b>売上高</b>	<b>22,200,946</b>	<b>23,478,387</b>
<b>売上原価</b>	<b>18,860,317</b>	<b>20,928,009</b>
売上総利益	3,340,628	2,550,377
販売費及び一般管理費	1,852,883	1,747,057
<b>営業利益</b>	<b>1,487,745</b>	<b>803,320</b>
営業外収益	38,174	77,608
営業外費用	65,323	75,483
<b>経常利益</b>	<b>1,460,595</b>	<b>805,446</b>
特別利益	—	49,840
特別損失	—	14,779
<b>税金等調整前四半期純利益</b>	<b>1,460,595</b>	<b>840,506</b>
法人税、住民税及び事業税	523,624	393,813
法人税等調整額	△23,586	△64,874
<b>四半期純利益</b>	<b>960,557</b>	<b>511,568</b>
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△244	101
<b>親会社株主に帰属する四半期純利益</b>	<b>960,802</b>	<b>511,466</b>

## 第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位：千円)

	当第2四半期 累計期間 自 2015年4月1日 至 2015年9月30日	前第2四半期 累計期間 自 2014年4月1日 至 2014年9月30日
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>2,241,196</b>	<b>2,515,553</b>
投資活動によるキャッシュ・フロー	△392,207	△1,909,913
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,408,419	△1,304,587
現金及び現金同等物に係る換算差額	△4,078	21,904
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	436,490	△677,043
現金及び現金同等物の期首残高	7,068,135	6,933,391
連結子会社の決算期変更に伴う現金及び 現金同等物の期首残高増減額(△は減少)	—	△98,479
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,504,626	6,157,868

記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

# 会社概要 (2015年9月30日現在)

**社名** 川崎近海汽船株式会社  
KAWASAKI KINKAI KISEN KAISHA,LTD.

**設立** 1966年(昭和41年)5月1日

**本社** 東京都千代田区霞が関三丁目2番1号

**資本金** 23億6,865万円

**代表者** 代表取締役社長 石井 繁礼

**従業員数** 396名

**主な事業内容** 海上運送事業  
海運仲立業  
港海運送事業および倉庫業  
貨物運送取扱事業  
海運代理店業

**役員**

代表取締役社長	石井 繁礼
専務取締役	赤沼 宏
常務取締役	高田 雅彦
常務取締役	友井 彰彦
常務取締役	杉本 利文
常務取締役	寅谷 剛
取締役	小山 卓三
取締役	川崎 誠司
取締役	馬場 信行
取締役	川戸 淳
取締役	佐野 秀広
取締役	久下 豊
取締役(社外)	陶浪 隆生*
監査役(常勤)	西浦 廣明
監査役(社外)	生和 勉
監査役(社外)	鈴木 修一*

(注)\* 陶浪隆生および鈴木修一は東京証券取引所の規則に定める独立役員として届け出ております。

# 株式の状況 (2015年9月30日現在)

**発行済株式の総数** 29,358,155株 (自己株式166,845株を除く)

**株主数** 3,203名 (前期末比 32名増)

**大株主** (上位10名)

株主名	当社への出資状況	
	株式数 (千株)	持株比率 (%)
川崎汽船株式会社	14,040	47.55%
東京海上日動火災保険株式会社	1,804	6.11%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	1,163	3.94%
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	864	2.93%
三井住友海上火災保険株式会社	598	2.03%
川崎近海汽船従業員持株会	377	1.28%
小池 恒三	351	1.19%
北海運輸株式会社	350	1.19%
株式会社栗林商会	304	1.03%
株式会社ダイトーコーポレーション	278	0.94%

## 株式の所有者別状況



## 株価及び株式売買高の推移 (2015年9月末現在)



# 川崎近海汽船株式會社

東京都千代田区霞が関三丁目2番1号 (〒100-0013)

TEL:03-3592-5800 FAX:03-3592-5911

## 株主メモ

■事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
■定時株主総会	6月
■同上権利行使株主確定日	3月31日
■期末配当金受領株主確定日	3月31日
■中間(第2四半期末)配当金受領株主確定日	9月30日
■基準日	上記確定日のほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
■株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
■特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
■郵送物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
■公告方法	電子公告により行います。公告掲載URL ( <a href="http://www.kawakin.co.jp/">http://www.kawakin.co.jp/</a> ) ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
■住所変更、単元未満株式の 買取等のお申出先について	株主様の口座のある証券会社にお申出ください。 なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、 特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
■未払配当金の支払について	株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
■配当金計算書について	配当金お支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。確定申告をなされる株主様は大切に保管願います。 ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いいたします。

当社IRサイトをご活用ください。→ <http://www.kawakin.co.jp/ir/>

当社ホームページでは、プレスリリースや決算情報等を掲載しております。ぜひご活用ください。



古紙配合率70%再生紙を使用しています